

# エルサレムの門を再建せよ

— 荒廃した教会を再建する —

ジェイコブ・ブラッシュ

## はじめに

こうして、大祭司エルヤシブは、その兄弟の祭司たちと、羊の門の再建に取りかかった。彼らはそれを聖別して、とびらを取りつけた。彼らはメアのやぐらまで聖別し、ハナヌエルのやぐらにまで及んだ。彼の次にエリコの人々が建て、その次にイムリの子ザクルが建てた。魚の門はセナアの子らが建てた。（ネヘミヤ書 1 章 1 節 - 3 節）

ネヘミヤはエルサレムの廃墟のことを聞きました。徹底的に破壊された町です。そして彼は王のもとに行き、町について嘆きながら、荒廃したままになっている町を再建できるように勅令を求めました。事実、荒廃したままになっている門を再建することは深い意味を持っていたのです。

これから出てくる門は、最終的には黙示録で見られる 12 の門の象徴です。時代によって門の数は様々でしたが、基本的には同じ構造を保っています。それはある程度、現代のエルサレム旧市街にある門と似てはいますが、当時の町は今よりもっと小さかったことでしょう。



## 羊の門と魚の門

最初に出てくる門は羊の門、その隣にはハナヌエルのやぐら（“神の恵み”の意味）があり、次にメアのやぐらがありました。羊の門とは、いけにえとするための羊を神殿へと導き入れた門です。一方、ハナヌエルとは“神の恵み”を意味し、神の恵みと関連しています。“メア (Me'ah)”とはヘブライ語で“100”を表します。イエスがこう言われたのを覚えているでしょうか、羊飼いが 1 匹をなくしたら 99 匹を残しておいて、1 匹を捜し歩かないでしょうかと（ルカ 15 章 3 節 - 7 節）。それはギター の 6 本の弦のようです。

弦が一本でも足りないとちゃんとした音は出ません。つまり、1 匹の羊が足りない適切な群れではないのです。適切な群れは 100 匹でなければなりません。（イスラエルの羊飼いは羊 100 匹をひとつの群れとして連れていました）

時に私たちはさまよい、道からそれてしまいます。また若い信者は後退してしまうことがあるでしょう。危機に瀕した時には、私たちは主に見捨てられたと間違えて考え、道からそれてしまいます。しかし、良い羊飼いが私たちを捜しにやって来ます。誰も失いたくないからです。『わたしの羊はわたしの声を聞き分けます』（ヨハネ 10 章 27 節）とイエスさまは言われました。

羊の門の隣には魚の門があります。イエスはまた『あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう』（マタイ 4 章 19 節）とも言われました。あなたや私が生まれ変わったとき、私たちは“獲られ”ました。覚えているでしょうか。使徒たちが漁をしたとき彼らは 153 匹の魚を取っておき、他の魚は海に戻しました（ヨハネ 21 章 11 節）。獲れた魚には良いものと悪いものがあつたのです。ある人たちは世に戻ってしまいます。

続きを読んでもみると、家や部族にしたがって様々な人たちが門を再建しています。

魚の門はセナアの子らが建てた。彼らは梁を置き、とびら、かんぬき、横木を取りつけた。彼らの次に、コツの子ウリヤの子であるメレモテが修理し、

ウリヤとは“神はわが光”という意味です

その次に、メシェザブエルの子ベレクヤの子であるメシュラムが修理し、その次に、バアナの子ツァドクが修理した。その次に、テコア人たちが修理したが、そのすぐれた人たちは彼らの主人たちの工事に協力しなかった。（ネヘミヤ書 3：3-5）

ここでは『そのすぐれた人たちは彼らの主人たちの工事に協力しなかった』とあります。民が荒廃したものを再建し始め、神の門を修理しようとし、かつてあつたものを復興させようとするとき、ひとつの問題があります。すぐれた人たちを信頼するべきではありません。多くの場合——例外はありますが——最も働きに準備が整っているとあなたが考える人、最も貢献しそうな人、救われてから一番年月を経ている人、聖書を一番よく知っている人、時には最も教養があり、交わりにおいて豊かな人が物事を始めるのに最も消極的であつたりするのです。

神が働かれた多くのとき、それはたいてい——これはいつもと言っても良いくらいですが——貧しい人たち、労働者階級を通してでした。南アメリカで起きた大リバイバル。それは貧しい地区、スラム街で起こりました。この国（イギリス）でのジョン・ウェスレーのリバイバル、それは鉱山労働者たち、労働者階級の底辺にいた人たちから始まりました。当時それはひどい仕事でした。4歳には黒肺塵症で亡くなる子どもたちがいました。鉱山労働者たちが救われたとき、彼らの顔は真っ黒でした。すすで完全に黒くなっていました。彼らは炭鉱から出てきて、ジョージ・ホイットフィールドやジョン・ウェスレーの説教を聞いて、自分の罪のために涙を流したのです。それは頬をつたって流れる白いしずくのようなものでしょう。鉱山労働者は今でいえば、麻薬の運び屋や売春婦のようなものでした。なぜなら、厳しい状況の中、その仕事だけで生計を立てることは出来ず、鉱山労働者であると言うことは自分が人殺しのようなものに関わっていると言うのと同じことだったからです。なので、そこにあったのは言葉にすることも出来ないような社会のひずみでした。そのような場所で福音は広がったのです。

私は中流階級の人たちや、教養のある中産階級の人たちに反対しているわけではありません。しかし、神が荒廃した教会を再建するために用いる中流階級の人たちは、貧しい者のしもべとなる者、労働者階級のしもべとなる者でしょう。通常、神は労働者階級の人たちを起こし将来有望な者とされ、そのような者たちをみこころを行う者とされます。すぐれた人たちに頼ってはいけません。門を再建するのを助けてくれそうな人たちがすぐ仕事に取り掛かるとってはなりません。そのような人たちは自分の快適な環境を手放そうとせず、自分の地位に固執し、不安定になるのを嫌い、今持っている物で暮らしていこうとします。なぜなら、何かを再建しようとするなら、そのために犠牲を払うことになるからです。何かしらの犠牲を伴います。しかし、そのような人たちは問題やいらいらさせるものを好みません。それゆえ、すぐれた人たちは主人たちの工事に協力しないのです。本来なら彼らは**協力すべき**です。中にはそうする人もいます。しかし、大抵は地の塩である人たちが仕事に取り掛かります。今までがそうであり、これからもそうであるでしょう。

この中には中流階級の人もいることでしょう。これを個人的に言われていると受け取らないでください。私もその中のひとりだからです。私は真実を語っていて、どの階級にある人をも侮辱しているわけではありません。私は単にそれが起こるなら、地の塩のためにそうなると言っているだけなのです。もし、イギリスや他のどの社会にリバイバルが来るとしても、それは中流階級の住む郊外に来る前に、貧しい者が住む公営住宅から始まるでしょう。また、片親しかいないような家庭、ホームレス、仕事の無い人たち——このような人たちのもとから始まります。ちょうどイエスの時代もそうでした。売春婦や取税人、盗人、熱心党员などの政治的な反体制家たち——こういうような人たちがイエスのもとに来たのです。そしてどのような人がイエスを退けたのでしょうか？宗教的な人たちです。それは今

も変わりません。

今エルサレム旧市街にある門を見ていくにしたがって、神は歴史の中からの教訓を示されています。エルサレム旧市街を歩いて行くと、千年や2千年ではなく、3千年いやそれ以上の歴史をエブス人の時代から見る事が出来ます。そして、その城壁や門は歴史を今に残しています。リバイバルと背教の歴史。更新と衰退の歴史。それは教会に関しても同じことです。エルサレムの城壁とその門がユダヤ民族の歴史を反映しているなら、またそれは何世紀にも渡って教会に起こったことの反映でもあるのです。



### エシヤナの門（古い門）とエフライムの門

#### 3章6節から

『エシヤナの門はパセアハの子エホヤダと、ベソデヤの子メシュラムが修理した。彼らは梁を置き、とびら、かんぬき、横木を取りつけた。彼らの次に、ギブオン人メラテヤと、メロノテ人ヤドン、それに川向こうの総督の管轄に属するギブオンとミツパの人々が修理した。』

次の門は古い門です（“エシヤナ”とは“古い”という意味）。また私たちはその古い門の隣にエフライムの門と呼ばれる門があったことを知っています。“エフライム”とは“実り豊かなこと”や“2倍の実り”という意味です。そして、そこからは長い谷の始まりでした。それは“チーズ作りの谷”や“チロペオンの谷”と呼ばれる低地で、この谷は現在のエルサレム旧市街の真ん中を通っています。それはカルド（元来ローマ人によって造られた南北に走る街路）の隣にあります。それがどこであったかは、発掘された城壁が平行に続いているのを見れば分かります。

クリスチャンは前進します。そして選択を迫られます。ふたつの門があります。それは古い門とエフライムの門です。私たちは羊のように導かれ、魚のように獲られたかもしれません。人が救われた最初るとき、初めの数日間には本当に素晴らしいものです。目からうろこが落ちたように真理が明らかになります。しかし、2、3日たつと我に返り始め——彼らはそう思うだけなのですが——これは現実なのかと疑問を抱き始めます。「これが切に求めているものなのだろうか？これが本当に求めている生活なのか？パチンコに行くこともできず、酒に酔うことも、麻薬も吸えず、女と寝ることも、他の奴とばかをするこもで

きず、妻に内緒にして浮気をすることも、タバコを吸うこともできないのか？」これは本当なのかどうかと感じます。それから周りからのプレッシャーが始まります。昔の友達、昔の欲求、数日のうちにあなたは選択を迫られることになるでしょう。

マタイ 13 章にある種まきの例えを考えてみてください。4つの種のうち3つが実を付けませんでした。私がある箇所を見て、考慮に入れると（これは教えとしてではなく、私の気付いたこととして言うのですが）私がキリストに導く4人のうち1人が長い期間忠実であり続けるということです。これは不満ではありません。4人のうちの3人はとても残念ですが、信仰を失ってしまいます。しかし、これは当然のことと言えばそうなのでしょう。言い換えると——私はこう言うことが出来ます。キリストに最も忠実であり続ける人たちは、そのことのために多くの代価を払った人たちであるということです。前もってその代価を計算していた人たちです。

それは多くの場所で見ることができます。確実にイスラエルのユダヤ人の中で見られることです。払うべき代価は非ユダヤ人の中にあるより多くの場合高くなります。イスラム教徒の間ではより高いことでしょう。そのような人たちは救われる前にその代価を注意深く考慮します。アイルランドではカトリック信者たちの間でそうならざるを得ません。プロテスタントになったと分かると、その人は家族を裏切った者ようになります——代価は高いのです。刑務所の中で人が救われたとき、刑務所はとても危険な場所となります。クリスチャンになれば囚人たちはその人を殺そうともし、ときには限界ぎりぎりまで追いつめ、その人が以前行っていたような暴力をもって自分たちに反応させようとします。それは容易ではないのです。囚人への伝道に心を砕いている人と話してみてください。私はノエル・プロクター (*Noel Proctor*) と話しました。彼はイギリス・マンチェスターにある“ストレンジウェイズ刑務所” (1990年に大きな暴動が起き 200人近くの負傷者が出た場所) のチャプレンを務めています。とても難しい仕事です。そのような人たちには高い代価が必要とされるのです。このような環境で救われた人たちは信仰からそれにくい傾向があります。

他の人は——私たちほとんどのことですが——次のような状況に出くわします。羊の門を通り、魚の門を抜けて、次にふたつの門が立ちはだかるのです。実り豊かな門と古い門、あなたはどちらの門を通りますか？古い門は昔のあなたに戻る門であり、昔の友達、昔の関心です。どちらの門を通り抜けますか？また古い門は谷のくぼ地へ続く断崖に立っています。長く深い谷、チロペオンの谷です。

聖書の中で谷は試練の時の象徴です。マタイ 13 章にはどう書かれているでしょうか。『み

ことばのために困難や迫害が起こると、すぐにつまずいてしまいます』(マタイ 13 章 20 節 -21 節) このような人は初めは勢いよく成長しているように見えますが、地に根をはっていません。人は救われると最初に試練の中を通されます。その試練の期間が延ばされることもあるでしょう。私たちは谷を通るのです。

### すべての人にはそれぞれの役割

その次に、金細工人のハルハヤの子ウジエルが修理し、

(“ウジエル” とは “神はわが力” の意)

その次に、香料作りのひとりハナヌヤが修理した。こうして、彼らはエルサレムを、広い城壁のところまで修復した。彼らの次に、エルサレム地区の半区の長、フルの子レファヤが修理した。その次に、ハルマフの子エダヤが自分の家に面する所を修理し、その次に、ハシャブネヤの子ハトシュが修理した。ハリムの子マルキヤと、

(“マルキヤ” とは “ヤハウエはわが王” の意)

パハテ・モアブの子ハシュブは、その続きの部分と炉のやぐらを修理した。その次に、エルサレムの残りの半区の長、ロヘシュの子シャルムが、自分の娘たちといっしょに修理した。(—3 章 12 節)

ここで気付いてもらいたいことは、男たちがする仕事があり、女たちがする仕事があったということです。どんな過去を持っている人でも、様々な仕事や職業の人、どの階層にある人でも自分の仕事を持っていたのです。あらゆる人たちが参加していました。



### 谷の門と糞の門

『谷の門はハヌンと、ザノアハの住民が修理した。彼らはそれを建て直し、とびら、かんぬき、横木を取りつけ、糞の門までの城壁一千キュビトを修理した。』(13 節)

次にあなたを迎えるのは谷の門です。しかし、その門は糞の門に続いています。糞の門の外にはエルサ

レムのごみ溜めがあり、そこでチロペオンの谷とケデロンの谷はヒノムの谷と合わさります。ヒノムの谷とは背教したユダの国が自分の子どもたちをモレクにささげていた場所です（2列王記 23 章 10 節）。そこには夜昼なく燃え続けるごみ溜めがありました。そのごみ溜めは“ゲヘノム”と呼ばれました——ゲヘナの由来です。（ゲヘナは新約聖書において、永遠に燃える地獄として書かれています）

私たちが聖地旅行でエルサレムへ立ち寄り、巡礼地を見、スタディーツアーをしているとき、これから行こうとしている場所のことを説明し、ここがその場所だと言います。ゲヘナに着くと「地獄へようこそ！ここが地獄に一番近い場所になることを私は願います！」と言うことでしょう。糞の門の外は文字通り地獄です。そこで 3 つの谷が合わさっています。

私たちは羊の門を通り、魚の門を通ります。もし、自分の十字架をしっかりと握りしめ、イエスについて行くなら、私たちはエフライムの門を通ります。実り豊かになることを選ぶのです。古い性質が姿を現したなら神はどのように対処されるのでしょうか。私たちが谷の門を通ることによってです。神はその谷、困難を用い、試練の時をもって私たちの古い性質に対処されます。しかし、その谷の終わりまで来ると私たちは糞の門に着きます。試練はその中にいるときは辛いものですが、それが終わりに至ると、私たちの生活の中の多くの“ごみ”が神によって捨て去られたことが分かります。それが神のなさりたいことなのです。

ピリピ人への手紙には『あなたがたのうちに良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださることを私は堅く信じている』（ピリピ 1 章 6 節）とあります。

神は私たちの人生の中にあるごみを捨て去りたいと願っておられます。私たちが好まなくても——当然のことながら私たちは好きにはなれませんが——神が私たちの中にあるごみを取り除くひとつの方法は、試練の時へと導くことです。神は私たちを谷の門へと導きます。ヤコブの手紙ではこのことに関してどう書いてあるのでしょうか？『私の兄弟たち。さまざまな試練に会うときは、それをこの上もない喜びと思いなさい』（ヤコブ 1 章 2 節）

私がまだ幼い信者であったとき、大きな過ちを犯していました。その節の意味を誤解していたのです。私は試練が来るようにと祈っていました。その祈りのように神が私のすべての祈りを早く、あっという間に、完全に応えられたらと思います。もし、試練が来るように祈ったなら、ほぼ応えられることでしょう。ベツツのようなものを欲しいと祈るかもしれませんが——おそらくそれを得ることは出来ないでしょう——しかし、試練が来るため

に祈るとそれはほぼ期待通りに叶えられます。



## 泉の門

14 節から

『糞の門はベテ・ハケレム地区の長、レカブの子マルキヤが修理した。彼はそれを建て直し、とびら、かんぬき、横木を取りつけた。泉の門はミツパ地区の長、コル・ホゼの子シャルンが修理した。彼はそれを建て直し、屋根をつけ、とびら、かんぬき、横木を取りつけた。また、王の園のシェラフの池の城壁を…

このシェラフの池とは後にイエスが盲目の男を癒し、目を開かれたシロアハ（シロアム）の池です（ヨハネ 9 章）。

ダビデの町から下って来る階段のところまで修理した。』（-15 節）

さて、このシェラフの池、シロアハの池とはヒゼキヤの水道があるところで、現在私たちもそこに入ることができ、旧市街へ水を運んでいるヒゼキヤの水道を私たちも通り抜けることができます。では次の門を見てみましょう。

進んで行くにしたがって、それほど遠くないところに次の門があります。泉の門です。それはシロアハの池があった場所であり、そこから水が流れ出ていました。

ヨハネ 7 章 39 節・イザヤ 44 章 3 節——シロアハの池から流れ、ヒゼキヤの水道を通過して旧市街に入るこの新鮮できれいな水は“マイム・ハイム”——“生きた水”と呼ばれていました。イザヤ書とヨハネの福音書においてそれはいつも聖霊の象徴です。

これを現在の状況に当てはめて考えてみましょう。イギリスや他のプロテスタント民主主義の国、教会の状態に関して私たちは絶望感を感じています。イスラムやニューエイジが台頭し、教会は衰えています。この国（イギリス）においてキリスト教は衰退しています。キリストが衰退したわけではありません。教会が勝利を得ていないのです。最終的には教会はキリストとその再臨のために勝利を得ます。しかし今は敗北しているのです。私たちは同性愛やニューエイジ、エキュメニズム（教会統一運動）などに対するすべてのことにおいて戦いに負けています。人々は何かが起こるのを期待しています。生きた水が流れ、



泉となることを見たいのです。しかし、水が流れ出すために必要なことをしませんが。初歩的なものに戻りたくないのです。泉の門に至るにはただ基本に立ち返るしかありません。

気付いているでしょうか。多くの大きな教会がもはや福音を宣べ伝えていないことを。彼らはイエスの血や十字架、罪、悔い改めについてさえ語りません。彼らの語っていることは力と勝利など——“神の国は今ここに (*Kingdom Now*)” という教えです。彼らは唯一、力と勝利を受ける道が、イエスが十字架でなされたことと死者からよみがえったことによると分かっていません。全てが間違っています。

彼らは道に戻り、行わなければならない選択を見ようとしません。私たちがしなければならない選択とは古い門またはエフライムの門どちらかを選ぶことです。“信仰を失う”という言葉で定義するなら、それは“この世に望みを置くこと”と言えるでしょう。信仰を失うことはこの世に望みを持つことです。誰かが信仰を失ってしまうなら、それはその人がこの世に望みを置いてしまったということです。

イギリスの有名な牧師が最近「私は今まで“この世は私の故郷ではない”と歌ってきたことを悔い改めます。この世こそ私の故郷です」と言っているのです。「天国に行くことは私の運命ではなく、ただひとつの利益にすぎない」と。これが彼の教えです。この人は古い門にいます。そして彼自身がそこにいることを望んでいるのです。

誰も自分が長い谷を通らなければならないということを実感したくはありません。私たちの人生には多くのいらぬものがあります。確実に**私の**人生の中にはそれがあります。しかし、より重要なことは教会の中に、取り除かれなければいけないたくさんのごみがあるということです。私たちはみな生きた水が流れ出すことを望んでいますが、その管にあって、水が流れるのを邪魔している多くのごみを神が取り除くまでは、水が流れ出すことはありません。いらぬものが多すぎます。とても多くのごみと汚水で通り道はふさがれ、生きた水は流れ出せないのです。そこで人々は出て行き庭のホースから水を出し、雨が降っているかのように見せかけます。しかし、そのようなことは通用しません。

次から次へと新しいことを人々はしがります。

近年、西洋世界にリバイバルをもたらそうとして、多くの無意味な試みがなされてきましたが、全てが同じ理由のために失敗しました。トロント・ブレッシング、プロミス・キーパーズ、レイクランドの“リバイバル”など。これらのことを聞いたことがないかもしれませんが、西洋のクリスチャンにとってこれらは“地球を揺るがす”ムーブメントでした。

そのすべてが不品行で終わり、社会に福音的な影響を与えることはできませんでした。なぜでしょうか。彼らは福音を宣べ伝えなかったからです。彼らはウェスレーがしたように罪を公に指摘せず、人の絶望的な状態や、悔い改める必要を説きませんでした。

彼らは笑い、歌い騒ぎ、誓いを立てましたが、雨は降りませんでした。生ける水が与えられなかったのです。現代、それは“イマージング・チャーチ”と“人生を導く目的”となって現われています。彼らは「聖書の絶対的な権威を強調するな」「罪や裁きについて語ってはいけない」と言います。教会はますます神の言葉と聖書の教えから遠ざかり続けています。

生きた水はそのようには流れ出しません。ごみを取り去ったときにこそ、それは流れ出ます。主が思い通りに事をなされるなら、私たちの人生や教会の中にあるごみを除き去ることでしょう。ごまかしや“神の国は今ここに”、置換神学、エキュメニズム、この世での繁栄やお金だけにしか目がいかない牧師たちを取り除くと、水が流れ出る道をふさいでいた安物が無くなり、水は流れ出るのです。



## 水の門

次の門はヒゼキヤの水道の一方の端に位置しています。それは水の門です。泉の門から水の門まで地下を通る水道はヒゼキヤによって作られました。それは今もそこにあり、通り抜けることも出来ます。あなたが閉所恐怖症でなければ興味深い所となるでしょう。

神は私たちが泉を得ることだけを望んでおられません。それが池となってほしいのです。私たちが御霊に満ち溢れ、聖霊に満たされた人生を歩み、聖霊に満たされた教会となってほしいのです。ある程度の水があっても、それは神が十分に満足されることではありません。

御霊の賜物が終わったという人たち——それが使徒の時代だけのものであったという教会、そのような人たちは聖霊をある程度しかいただくことができず、賜物を含む御霊の豊かさに対して心を開きません。と言っても私は賜物を与えられる方より賜物を求めてはいません。私は主ご自身を求めています。しかし、御霊の賜物が終わったという人はトロントの極端と同じように間違っています。バランスを保つべきです。人々はトロントにはまっていたような一部の現代カリスマ派の極端とその狂乱さを見て、御霊の賜物をすべて退けて

しまっています。誰もお金が偽造されるからといって、お金を燃やしたりはしないでしょう。誰も無用なものと一緒に大事なもので捨ててはいけません。しかし、残念ながらそうしてしまう人がいます。

水の門を過ぎても旅は続き、修復は続きます。これは前進していく作業です。糞の門を経て私たちは泉の門に至ります。そして次は水の門に行き着くのです。



## 馬の門

26 節で彼らがやって来たのはオフェルです。

『オフェルの住民で宮に仕えるしもべたちとは、東のほうの水の門、および突き出ているやぐらに面する所までを修理した。そのあとに、テコア人が、突き出ている大きなやぐらに面している所から、オフェルの城壁までの続きの部分修理した。馬の門から上のほうは、祭司たちがそれぞれ、自分の家に面する所を修理した。』

今私たちはエルサレムの東側に来ました。それは現在発掘されている元々の旧市街に近いところです。その城壁はずっと同じ場所——現在のオリーブ山に面して、ケデロン谷を挟んだ東の城壁とおよそ同じ位置——にあったと思われます。ここがオリーブ山です。東を向くとそこから大して遠くはないところに馬の門があります。

聖書の時代に馬は物の運搬には用いられませんでした。古代中近東において、ろばやらくだは運搬のため、羊は肉や羊毛、牛は肉や皮、乳のために飼われていました。しかし、馬にはただひとつだけの目的、ひとつだけしか利用法がありませんでした。馬は戦いのための動物です。それは戦車を引くためや騎兵が乗るためだけに使われたのです。それ以外の使い方はありませんでした。

そうです、私たちが御霊に満たされた教会で、御霊に満たされた生活を歩まないかぎり戦いに向かうのにはふさわしくありません。

この国の教会はもはやニューエイジを受けて立つ霊的な状態にありません。またイスラム教を相手にして戦うことも出来ません。私たちは勝てないでしょう。イスラム教はアッラーから授かったシャリヤ——イスラム法を回復させる計画を持っていると宣言し、キリスト教が救えない道徳の基準を回復させようとしています。彼らはそう宣言しています。も

し、サラームや他のイスラム教徒など、私が過激派だと考える人たち——アフマド・ディーダト (*Ahmed Deedat*) などの本を読めば次のようなことが書いてあります。「イギリスがイスラム国家になれば次のような犯罪はありません。全く撲滅できます。イスラム国家では同性愛はありません。このようなことは全くありません。同性愛者は…死刑になります。窃盗犯は…手を切り落とされます。レイプ犯は…去勢されます。フェミニストは…鞭打ちにされます。シャリヤ法を実行するイスラム教は、この国がこれまで道徳的になしえなかったことを回復することが出来ます」この国の教会はもはや道徳の正しい基準を回復することは出来ません。かつては可能であったでしょう——かつてはそうでしたが、それはもう不可能です。

西洋の国々で起こっている最も思慮に欠けていて、最もばからしいことは“神の国は今ここに”の教えです。再建主義者たちは言います。「私たちには勝利があります！圧倒的な勝利です！収穫が来ます！大きな収穫です！力が与えられます！すごい力です！」そう言いながら反対のことが起きています。まさに正反対です！ある福音派の大監督は言いました。「私たちは全ての真理を持っていないので、残りの真理を見つけるために救われていない人にも目を向けるべきです」このようなことが起こっているのです。この人たちは「勝利だ！」と叫んで、笑いながら床を駆けまわっています。何とくだらないことなのでしょうか？完全にばかっています。

教会が御霊に満たされなければ、戦いに出ることが出来ません。馬の門を通るには水の門を通らなければならないのです。しかし、水を得るには、神にいらぬものを取り除いてもらわなくてはなりません。また神がそれを取り除くには、それが**取り除かれなければならないもの**だと私たちが認識しなければならないのです。私たちはそれをいらぬものとさえ呼んでいません。この世に頼ろうとする願望こそがいらぬものなのです。有力な牧師はこの世を故郷と呼んでいます。彼らはそれをいらぬものとさえ呼びません。それが何であるかも分かっていないのです。

## 東の門

次の門はどのようなものでしょうか。29 節



『そのあとに、イメルの子ツアドクが、自分の家に面する所を修理した。そのあとに、シェカヌヤの子、東の門を守る者シエマヤが修理した。』

東の門は黄金の門と呼ばれることもあります。これはイエスさまが“シュロの主日”に通られた門です。

福音派でクリスチャンの考古学者ジム・フレミング博士は現在の東の門の地下にヘロデ王朝時代の碑石を発掘した者のひとりです。これが意味することは、現在の東の門はイエスが通った東の門と同じ位置にあると確信できるということです。またその反対側のオリブ山のある地点には、大祭司が贖いの日（ヨム・キプール）に赤い雌牛を連れて立ち、ケデロンの谷を隔てて東の門から至聖所を見通していた場所があります。これはヘブライ大学考古学科のアシェル・カウフマン博士の説を証明するものになるでしょう。彼は本来の神殿はちょうどオマール・モスク——いつも写真で見る“岩のドーム”と同じ場所にあったのではなく、70メートルほど北にあったと言っています。言い換えると、神殿を再建するためにはそのモスクを壊す**必要はない**のです。

反キリストがエキュメニズムの中心地を神殿の丘に定めて、ユダヤ人とアラブ人が神殿の丘で共に礼拝をすることになったらすごいことです。

エルサレムは今世界の議論の的になっています。そして反キリストはどうにかして偽りの平和をもたらすでしょう。ひとつの方法は——私は預言をしているわけではありません。ただ話しているだけなのですが、それが起こるひとつの方法は、エルサレムについて交渉するためにユダヤ人を連れて行き——正統派でもよいでしょう——イスラム教徒と意見を一致させて神殿を神殿の丘に再建することです。彼らは言うでしょう「よろしいです。神殿を建て、あなたたちは東エルサレムをとりなさい。あなたたちはあなたたちの土地を、私たちは私たちの土地をとります。みな一緒に暮らしていくのです」以前ラビン首相が暗殺される前にイスラエル政府が教皇に申し出をしたことは興味深いことです。彼らはエルサレムを信仰の融和する町にするため、教皇も役割を果たすことを期待しました。エルサレムは3つの偽宗教の聖地です。

- 名ばかりのキリスト教——エルサレムの復活の教会に行ったときに、あなたは人々が石に口づけをし、聖像や偶像などのものに祈っているのを見ます。公然とした偶像礼拝と迷信です
- ラビ的ユダヤ教——ラビによる偽りのユダヤ教であり、自分たちのメシアであるイエシュアを否定しています
- イスラム教——岩のドームの周りの外壁には「神には子がない」とコーランのソラートからの引用が記されています

私たちはヨハネの手紙で、御父と御子を否定する者、イエスがメシアだということを否定する者は反キリストであると分かります。すでに反キリストは自分自身が礼拝されるために動き出しています。

私は神殿が再建されなければならないと言っているのではありません。単にそれが起こりそうだと言っているのです。もちろん、私が懸念を抱いている荒らす忌むべきものは教会の中ですでにいます。信仰の違いを越えた礼拝（インターフェイス礼拝）、エキュメニズムがそうです。教会は新約聖書の中で7回、神の神殿と呼ばれています。ギリシア語ではそれぞれ“オイコス (*oikos*)”や“ナオス (*naos*)”、“ヒエロン (*hieron*)”といます。事実教会は7回、神殿や幕屋と呼ばれているのです。教会の中でヒンドゥー教やシーク教、イスラム教、ローマのいわゆる“キリスト教徒の教会”と呼ばれるものと、信仰の違いを越えて礼拝をしようとする試みがあるなら、あなたは神殿の中に荒らす忌むべきものが据えられるのを見ているのです（ダニエル 11 章 31 節）。

これはカンタベリー大聖堂で行われた英国国教会の大会で実際になされたことです。今それはイマージング・チャーチによって広められています。福音派であるリック・ウォレンとその運動は、エキュメニカル的なイマージング・チャーチを支援すると積極的に発言しています。

リック・ウォレンはまた教理に関わりなく、あらゆる種類のクリスチャンを受け入れています。その中には聖書が偶像礼拝と呼ぶ、マリアに祈り、儀式的な秘跡に頼っているローマ・カトリックも含まれています。リック・ウォレンにとって、キリストに関する間違った教えも「本質的ではない」問題なのです。

これはリック・ウォレンを個人的に批判することではなく、彼は個人的には福音派であり、もちろんとても誠実ですが、現代において彼の間違った教えは聖書的なキリスト教に対する一番危険なものとなっています。最近多くの人によって、リック・ウォレンの行っている運動は、反キリストが行うと聖書が書いていることそのままであると指摘されています。さらに知りたい方はモリエルのウェブサイトでリック・ウォレンの教えについて調べることができます。

これは反キリストの像を再建することであり、それが建てられるときには、教会が霊的に反キリストを受け入れてしまったことを反映しているのです。今すでにそうになっています。

東の門はいつでもメシアの到来と関係しています。エゼキエル書には預言があり、東の門はメシアがそこに入った後閉じられると書いてあります。トルコ帝国がイスラエルを占領したとき、メシアは東の門を通して入らなければならないという伝統を知っていた王がいました。そこで彼はその門を閉鎖し、メシアが入って来られないようにしました。このことはエゼキエル 44 章 1 節に書いてあります。

『彼が私を聖所の東向きの外の門に連れ戻ると、門は閉じていた。主は私に仰せられた。「この門は閉じたままにしておけ。あけてはならない。だれもここから入ってはならない。イスラエルの神、主がここから入られたからだ。これは閉じたままにしておかなければならない。』(—2 節)

イエスはシュロの主日に東の門に入りました。そして今私たちが見ている門は閉じられたのです。このとおりメシアがこの門を通られた後それは閉じられました。今もそのままです。預言は文字通り成就しました。またその箇所には**神**がそこから入ると書かれています。イエスは神でした。つまり彼は門から入りエゼキエル 44 章 1 節から 2 節の預言を文字通り成就したのです。それはイエスの到来です。



### 裁きの門

もうひとつの門があります。私たちはそれをヘブライ語で“裁きの門”と呼びます。イエスが戻られたなら裁きが下されます。そしてふたつの裁きがあります。救われた者と救われていない者に対する裁きです。そこにはふたつの裁きの座があります。“トロノス (*thronos*)”と“ベマ (*bema*)”の座です。救われていない者は“トロノス”の座——判決を下される座の前に現れ、救われた者は“ベマ”の座の前で報酬の度合いに関して裁きを受けます。

### 今その門を再建する

私たちはほとんどの西洋の国々でそれらの門が荒廃している時代に生きています。そしてその中で主はネヘミヤのように荒廃を嘆き、再建を始める者を求めておられます。そこには男も女もいました。あらゆる経歴、職業を持った人がいて家族ごとに働いていました。さまざまな団体がさまざまな仕事を持っていました。いろいろな人たちがいろいろな持ち場を持っていました。これからもそうなることでしょう。私たちにはみな同じ奉仕があるのでも、同じ場所を任されているのでもありません。しかし、みなが同じ目的を持っています。荒廃したものを再建することです。

ネヘミヤはかつては存在したが今は何も無い場所へとおもむきました。それは破壊されていたのです。彼は泉の門や水の門、馬の門を最初に再建しようとはしませんでした。そのようなことはまず横に置いておきましょう。私たちがイスラム教に挑戦できる状態であればいいと私は思っています。しかし、現実はそうではありません。(編集者注…日本でも

仏教と物質主義について同じことが言えます) ただこれはイスラム教徒に福音を証すべきではないという意味ではありません。私たちはイスラム教徒に福音を証すべきです。またニューエイジを信じている人に福音を証すべきではないという意味ではありません。そうすべきです。彼らの救いのために祈るべきでしょうか? もちろんです。しかし、その意味することは、極東(インドネシアや中国)の教会のように、この国の教会がそのような勢力を押し返すことができる状態ではないということです。

私たちは順序を追って再建し始めなくてはなりません。基本に戻るのです。それは魚の門、羊の門です。『わたしの羊はわたしの声を聞き分けます』(ヨハネ 10 章 27 節) 神の子羊は私たちのために屠られました。福音はもはや教会では全く強調されず、説教されてもいません。賛美歌はどれもこれもすべて子羊の血以外のことについてです。ヴィンヤード賛美歌というものがあるのですが、80 いくらかの賛美歌のうちたった 2 つしか十字架と血について語っていませんでした。

### 神の伝道のご計画をいただく

私たちが始めなければならないひとつのことは、神の伝道の計画が与えられるように祈ることです。私の後ろにトラクトがあることを神に感謝します。いくらか持って行き、人に渡しましょう。またある集会を伝道のために用い、祈禱会も人が救われるために祈ろうではありませんか。基礎的なことに戻しましょう。福音、私たちは漁に出るのです。

私たちはイエスさまが示されるまで、網をどこに投げるか決められません。イエスさまが私たちの舟に来て網をどこに投げるかを教えてもらわないといけないのです。しかし、誰も一本の釣竿を使えない人はいません。その日その日に福音を証できないような人は誰もおらず、主にそのご計画を尋ねられない人はいません。基礎的なことに戻しましょう。次に古い門、エフライムの門、谷の門です。

### 今の状態を逆転させる

この国やニューージーランドやオーストラリア、イギリスなどが今の墮落した状態にあるのは、次の理由のためです。これらの国や社会が置かれている状態は、その国の教会が置かれている状態だからです。私たちは“塩”や“光”になるべきです。私たちが悔い改めない限り、社会に何の悔い改めも引き起こすことは出来ません。

そこには多くのごみやがらくたがあって、水が出ようとするのをふさいでいます。水の流れる管は詰まっているのです。誰も下水道のようなものに入って掃除したいとは思いません。しかし、それはしなければならない仕事なのです。私たちは気付かなくてはなりません。教会と私たちの人生には多くのがらくたがあり、水が再び流れ出すためにイエスさま



はそれを取り除かなくてはならないのです。

この問題が山積した状態から抜け出すのは容易ではありません。城壁が再建され、門が修理されなくてはならず、すべき事が山とあります。しかし、すぐれた人たちはその仕事を手伝おうとしないでしょう。それは主に一般の人々がすることになります。今までずっとそうであり、これからもそうなるでしょう。

しかし、私たちが人の計画ではなく、神の計画に従うならそのごみは無くなっていくのです。その後には水は流れ始めます。水が流れ始めれば、それは池を満たします。御霊に満たされた教会です。

サタンはカリスマ派の教会を好きではありません。しかし恐れてはいません。サタンは根本主義的な教会を好きではありません。しかし恐れてはいないのです。しかし、私たちが霊とまことを持つとき、教会が神のことばの上に立ち、それでいて御霊の豊かさや賜物を受け入れ一致をもって働くとき、それはサタンが見たくもないような教会となります。そしてサタンはあらゆることをして教会がもう一度そうなるのを妨げるでしょう。彼は根本主義者をもって御霊の賜物を禁じ、聖霊に抵抗し、御霊を消そうとします。また気が狂ったようなカリスマ派をもって御霊の賜物の信頼性を無くし、根本主義者がそのようにする理由を与えます。そしてサタンはカリスマ派を自分のものとし、正気を失わせ、彼らを聖書から遠ざけ、くだらないことを言わせます。私は先週あるペンテコステ派の牧師の話を聞きました。彼は聖書を持って、「この本は私たちには役に立たない。私たちにはもっと“霊”が必要なのだ」と言っていました。何ですって？彼はどの霊のことを話していたのでしょうか。

ごみが無くなると、次に水が流れ出します。その後私たちは戦いに出ます。私たちは戦いのために馬に乗り、戦車に馬をつなぐのです。その後には私たちは暗やみの力に打ち勝つことができます。

### 時代のしるし

東の門——もし、20年前に私がなぜイエスの再臨が近いのかと聞かれていたなら、私はそれが中東での出来事やヨーロッパの再統合、世界経済のグローバル化、世界単一通貨のシステムやそのようなことのためだと言ったことでしょう。それに今も賛成し、正しい考えだと思っています。私は20年前よりも今のほうがその意見に共感しています。しかし、それは現在、私がイエスの再臨が近いと信じる主な理由ではありません。イエスの再臨が起っていると私が信じる主な理由は、教会が欺かれている度合いの大きさです。

主要な指導者で、カンタベリーの福音派の大監督、カリスマ派、福音派、生まれ変わった者、聖書を信じるクリスチャンがロンドンのウィンブリーで立ち上がり、この国の福音派の教会や教団の指導者たちに向かって、私たちは生まれ変わった者でさえ全ての真理を持っておらず、救われていない者も真理を持っているから彼らの助けが必要ですよと言っています。なんとこのばかげたことでしょうか！

アメリカで一番大きなアッセンブリーズ・オブ・ゴッドのある説教者は立ち上がって、「この世こそが私たちの故郷である、私は今までこの世が自分の故郷ではないと誓って言ったことを悔い改める」と言いました。

イエスさまはすぐ戻って来ます。東の門です。しかしイエスさまが来られる時には裁きが下されます。最後の門です。

これらの門はネヘミヤの時代には朽ち果てており、現代も朽ち果てています。ネヘミヤと彼に加わった人たちはそれを修理することは容易ではないと気付きました。彼らはしなければならないことに気付き、腕をまくりそれに取り掛かりました。男も女も同じようにです。彼らはみな自分の職業を持ち、それぞれの過去を持ち、その持ち場を持っていました。しかし、それは成し遂げなければならないと気付いたのです。近道はありません。現代も同じです。それがあの門の意味です。

現代西洋のバプテスト連合はこれらの門を再建しようとしません。彼らはローマと妥協してしまいました。アッセンブリーズ・オブ・ゴッドはこれらの門を再建しようとしません。国教会もこれらの門を再建しようとしません。30年たった“カリスマ派の刷新運動”もどこに改善されたものがあるのでしょうか。それはありません。これらの門は聖職者や指導者たちによって再建されることはありません。すぐれた人たちはその主人たちの工事に協力しないのです。それらの門は、それを再建したのと同じような人たちによって再建されます。あなたたちのような人です。私たちにはすべき働きがたくさんあります。またそれは最も困難なことです。最も困難な働きとは何でしょうか。それは祈りに他なりません。

†††